

煉瓦・瓦グループ 第1号

昔(大正期～昭和前期)、樽岸町に瓦と煉瓦の工場があったことをご存知でしょうか?現地調査や文献調査によって少しずつ分かってきた、寿都産の瓦と煉瓦の歴史をご紹介します。※参考資料:寿都町広報昭和55年5月号

歴史

瓦工場は、樽岸町の朱太川河口から南西約150mにある小川の寿都寄り、旧中島家の裏付近に位置します。明治26年、朱太川河口付近の土壌が、瓦焼きに適していたため、樽岸村の中島豊吉と勝井栄右衛門によって設立されました。需要先は、寿都町市街地(旧寿都町)をはじめ、橋本家(歌棄村)や岩内、小樽、函館方面まで行き渡り、函館では有名な「三升楼」の屋根瓦にも使われました。

煉瓦工場は、樽岸町小川から下湯別間の旧村道の間寄り、北方向海側約100mの旧對馬家田圃付近に位置します。明治27年に磯見安次郎が創業し、煉瓦工夫や女工数十人が働いていたとされています。

需要先は、寿都町内や近隣町村の商店の商品資材、漁場の漁具倉庫等に使われていたそうです。

瓦工場と煉瓦工場は、両工場とも個人経営でしたが、大正8年に寿都町の有力者たちにより設立された「寿都煉瓦株式会社」に買収されました。その後、瓦と煉瓦の需要減少により、大正末期か昭和はじめ頃に閉鎖されたようです。



有戸 橋本家の蔵も樽岸産の瓦
(寿都町広報昭和51年3-4月号掲載)

位置図

瓦工場の跡地



煉瓦工場の跡地



今も残る 寿都産の 瓦

なかじまとよさく
中嶋豊作氏
制作の鬼瓦。
現在はウィズ
コムに保管さ
れている。



名工の作 鬼瓦

寿都産の 煉瓦 か?!

いわさき
岩崎町の煉瓦造
の蔵遺構で、明治
期に建築。
寿都産の煉瓦が
使用されているか、
今後調査を進める。
※平成9年歴史的
資源実態調査報
告書より

岩崎町の煉瓦造の蔵遺構

